

第5回田川市都市計画マスタープラン策定委員会

— 議 事 要 旨 —

■日時：平成22年11月26日（金）
13：30～16：00

■場所：田川市役所 1階 大会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 住民説明会について
 - (2) 地域別構想について
 - (3) その他
- 4 閉会

【委員出席者】

- ・依田浩敏（近畿大学産業理工学部教授）
- ・文屋俊子（公立大学法人福岡県立大学人間社会学部教授）
- ・小川博之（福岡県建築都市部都市計画課長）代理：森田委員
- ・宮崎良哉（福岡県田川県土整備事務所長）代理：平川委員
- ・佐渡文夫（田川商工会議所会頭）
- ・伊藤龍文（田川市農業委員会会長）
- ・佐々木シゲ子（たがわ21女性会議代表）
- ・嶋津亮彦（田川青年会議所直前理事長）
- ・吉武精稔（田川市区長会常務理事）
- ・國松茂雄（田川市社会福祉協議会会長）
- ・佐藤俊一（田川市議会議員）
- ・二場公人（田川市議会議員）
- ・竹野九州男（田川市議会議員）
- ・今村秀治（公募市民）
- ・尾崎行人（公募市民）
- ・池田智子（FIT）
- ・野村万紀（田川市環境審議会委員）

【議事概要】

3 協議事項

(1) 住民説明会について

■委員長

今回で第5回目となる。前回、全体構想については、一度お諮りしてご意見をいただいた。本日は、住民説明会の報告と地域別構想の現状と課題についての説明を聞くこととする。では早速、住民説明会の結果報告について事務局より説明を行っていただき、その後質疑応答を行うこととする。

(資料内容説明：事務局)

■委員長

事務局から住民説明会の概要、住民からの意見と市の考え方を説明していただいた。厳しい意見などあったが、この内容について意見、質問はあるか。

■委員

住民説明会の実施は、一度で終わりなのか。もう一度実施する予定はあるのか。

■事務局

来年の8月に都市計画マスタープランの策定を完了したいと思う。事務局で考えているのは、ある程度策定が終わった段階でパブリックコメントを実施し、住民の意見を伺いたいと思う。住民説明会については現段階では考えていない。いずれにしても情報公開の姿勢に変わりはない。

■委員

私も弓削田地区で説明会に参加したが、資料をその場で渡され、その内容を説明されても分からない人が多いと思う。人数を集める方法も考えなければならない。広報やチラシを配るだけでは、住民は集まらない。ただ広報を出すだけでなく、区長会など様々なところへの声かけを行うことで参加者が集まった例もあるので、多くの人に聞いていただけるように、今後の課題として提言したい。

■委員

夏の暑い盛りの8月23日から9月1日まで事務局はよくがんばったと思う。私は鎮西地区で説明会に参加したが、私は説明していただいた内容で理解できた。大変意義ある話だったと思う。しかし、会場の多くは中学校の2階であった。参加者の中にはお年寄りもいるので、もし次回住民説明会を行う機会があれば、今後はもう少し会場に配慮した方が良いと思う。

■委員長

事務局には今の意見を今後の参考としてもらいたい。

■委員

猪位金地区で説明会に参加した。全体構想の説明であったため、どうしても市街化区域が中心の話となっていた。住民説明会で意見を求めるのなら、猪位金の課題はどこにあるのかといった、もう少し各地域の課題について意見を求めた方が良いと思う。今回地域別構想についての話があると思うが、これを受けてもう一度住民に話を聞くような機会があっても良いのかなと思う。

■事務局

検討させていただく。

(2) 地域別構想について

■委員長

次に、地域別構想について事務局から説明を行ってもらおう。今回は、地域別の現状と課題について事務局から説明してもらい、各地域の現状等について共有していただきたいと思う。地域別構想の最終的な内容については次回説明していただく。

(資料内容説明：事務局)

■委員長

地域の特性と地域の課題の説明があった。6つの地域に分けてそれぞれ記載されているわけだが、非常に分量も多いので、まず、地域ごとに出身というか、関わりのある委員にご意見、あるいはご感想をいただいて、その後、他の委員からもご意見をいただくような形で進めていきたい。議論は、各地域ごとに2枚で1セットとなっているが、基本的には、1枚目の地図が載っている部分、地域の特性と課題に焦点をあてて進めたい。

<市街地北部地域について>

■委員

大藪のあたりは、工業地域といっても工場は、小さなものが点々としているのみである。バイパスには大型店舗が並んでいる。中央校区にはなっているが、バス路線でもないし、自家用車に頼っているという課題がある。また、緑地が残っているとされるが、本当に緑地と言えるものなのかという疑問がある。

■委員

まだ、イメージがしっかり頭に入っていない。バイパス沿いの話は、確かにその通りだと思う。

■委員

説明を聞き、各地域で個性があり、同じ商業地域でも伊田と後藤寺で違うのだなと感じた。田川は大きなまちではないが、田川は20年後こうあるべきだというものを示さなければならないと思う。

伊田駅周辺に関してはシンボルが欲しいと思う。賑わいがいい中で、人が集まれるシステムの構築が望まれる。賑わいをつくるという必要性はこれの中ではうまく出てきていると感じた。

■委員

地域区分については6つの地域に分けているが、校区の分け方が正確でないと思う。星美台の校区は田川校区である。

また、地域の課題の欄の①拠点・土地利用、②都市施設等、③都市環境・景観形成に関しては概ね良いと思う。もう少し、これについて自分なりに整理したい。

■事務局

星美台の校区については金川校区であると認識していた。再度確認し、次回報告する。

■副委員長

今後、田川直方バイパスの延伸が考えられるが、その予定地は農業振興地域にかかっている。大きな道路に面する農業振興地域については何か対策が必要であると思う。

■委員

田川市の農地はほぼ農業振興地域である。昨年12月の農地法の改正により、農地転用が原則不許可となる優良農地の基準面積が強化され、その面積が20haから10haへと変更になっている。現在、農業振興地域に関する検討会議も行われている。以前ある地区でやはり農地転用の申請が出たが、10haということが一番のネックとなって、それは認められないということになった例もある。やはり都市計画において、農業振興地域と関係する部分については、十分な事前協議が必要であるし、法律の観点からも検討する必要がある。

出てくる。

■委員長

今の話については、次回以降検討していきたい。

■委員

伊田駅前の広場整備について、伊田駅を田川の顔として考えると、窮屈な印象はあるが、市として整備に向けた考えがあれば教えてほしい。

■事務局

都市計画マスタープランが、田川市のまちづくりの方向性を示すものとなってくる。今後、広域幹線道路（田川直方バイパス）の延伸部分がもし整備されるということになれば、その沿線は非常に開発圧力が高まると考えられる。ゆえに都市化を凶る部分と農地の保全をしなければならない部分に関して都市側と農政側で一緒になって協議しながら決めていかなければならないと思っている。ここではお互いに協調しながら法的に土地利用の規制をしていかなければならないという観点で記載をしていることから、特に問題はないと思う。

伊田駅、後藤寺駅共に、駅前広場の計画はある。伊田駅については、駅前の道路は完成したが、駅前広場も市の玄関口として整備する必要があると考えている。これについては、都市計画マスタープランの整備方針の中で、「市の玄関口に相応しい駅前空間の整備」という表現で記載しているし、目標に向かって努力をしていきたい。

<市街地南部地域について>

■委員

後藤寺は、住みたい人はいるが住宅地が不足しているという課題がある。密集住宅が多く、狭い道も多く、駐車場を確保できるようなところが少ない。住宅環境を整備する必要がある。商業に関しても都市レベルの広い視点で考えることは重要であると思う。後藤寺だけのことを考えていては、20年後の商業の在り方に影響が出てくる。このように全体像を示していただくと非常にわかりやすくありがたい。あとは自分たちが頑張るだけである。

■委員

駅周辺に高齢者や若者が住めるような住宅をつくることによって商店街の利用者も増えると思う。後藤寺・伊田両駅周辺ではそのような取り組みを進めてほしい。

■委員長

都市計画マスタープランと並行して住宅マスタープランの策定も進んでいるので、すり合わせをしながら住宅に関する問題も考えていく必要がある。

■副委員長

伊田駅、後藤寺駅は JR 線の外側に発展している。両駅間には大した距離がある訳ではない。田川市の都市計画として中心性が分からないという問題がある。現在ある2つの中心をいかに繋げるかが大切であり、これを都市計画的に考えるべきである。後藤寺駅周辺には、ガードはあるし、跨線橋もあるので、現状において利点がある。伊田は、駅裏に石炭歴史博物館はあるものの、行くのに不便である。これらをうまく繋いでいく何らかの考え方が都市計画として必要ではないかと思っている。

■委員長

単独ではなくて、繋いでいくという考え方であると思う。

<弓削田地域について>

■委員

これからの時代は、環境問題とか食糧需給問題等を整えていきながらまちづくりを進めていかななくてはならないと感じた。猪位金と弓削田は同じような問題を抱えていると思う。スーパーや医療施設という面で利便性が悪いという問題を抱えている中で、今後公共交通

の充実がキーワードになると思う。また、農地や森林を守っていかなければならないと思うが、後継者問題もある。森林も手つかずのものもある。猪も出没していると聞く。休耕田や森林の管理が課題である。

■委員

猪位金は、猪が多く、獣害が頻発している。また、都市計画の中で、用途地域のことも考えながら住宅等の問題に取り組まなければならないと思う。

■委員

意見の1点目としては、筑豊烏尾トンネルを抜けた所が市の新しい玄関口になると思う。そこが現状として寂しい。都市計画として田川市の顔として開発を進めていってはどうかと思う。2点目としては、田川市の総合計画の中にも記載されているが、農業を中心とした新産業を促進するという点で農地の保全が必要であると思う。

また、彦山川と中元寺川という2本の動脈が流れている中で、その水質を綺麗に保つ意味で汚水対策も喫緊の課題として重要な項目として入れるべきである。

■委員

弓削田小学校付近は、農業振興地域となっているが、ここ数年で家が建ち並び、住宅が無秩序に建てられているという状況である。

<猪位金地域について>

■委員

農業の問題は、担い手がないことである。猪位金全体で約130haの農地があるが、耕作放棄地も増えてきている。その原因は獣害などで深刻になっている。これらは緊急の課題である。田川市は対策が遅れている。獣害をそのままにしておくと、住環境も脅かされていく。また、猪位金の課題に記述されている「古くからある農村集落が多く点在しており、人口減少、高齢化が急速に進行する中、コミュニティ活動が困難となっており」とあるが、猪位金だけが特に問題となっているのか。そのように映っているのなら、これはどこを指しているのか。また、合併浄化槽についての記述があるが、これは猪位金川、中元寺川の浄化という点では、大切なことなので記載は構わないが、猪位金だけに特筆すべきものなのかという疑問がある。合併浄化槽の設置率が低いからなのかかわからないが、他の地域にはこうした記載がないように思える。そういう意味では、田川市の下水道整備の方向性はどうなっているのか。

猪位金川の整備に向けても活動を進めている。その中で環境保全部会も設置した。猪位金の自然環境を守り、生かすという点もぜひ考えていただきたい。

■委員長

文章については、もう少し精査をしてほしい。

■事務局

コミュニティ活動が困難という記述については、少々配慮に欠けていたかもしれない。住民活動も活発であるという話も伺ったので、内容については検討する。

■副委員長

農村環境として猪位金は良いと思う。住民活動も一体となってやっていただいている。高齢化や獣害などで後継者不足は確かに進んでいると思う。

都市化を計画的に進める部分、農地を保全する部分など、区分をしていきながら都市計画を進めていってほしいと感じた。そのことによって美しい農村環境をきちり守っていくことが大事になると思う。

■委員長

私も猪位金にある市民農園に関わりがあり、好きな景観でもある。美しい農村環境は保全してほしいと思う。

■委員

猪位金地区の西鉄バス路線の廃止の時、後藤寺商店街の通行量が減った。そういった意

味で、中心市街地活性化に大きく絡む問題であると感じた。公共交通の強化充実が必要になってくるものと思う。筑豊烏尾トンネルができ、八木山バイパスが無料化になって渋滞が発生はしているが、そこは交通の要衝として十分に可能性を秘めた場所であると思う。渋滞が緩和された際は、開発圧力が高まると思うので、計画的な開発が必要であると思う。

<鎮西地域について>

■委員

鎮西地域は、公共交通がなく、ふれあいバスの本数もわずかなので、福祉、医療施設への移動が困難であり、また、至るところで過疎化が進んでいる。そのような課題に対する対策が必要である。

■委員

上伊田公園や成道寺公園など公園は多数あるが、公園としてどのくらいの人が利用しているのか。現状として利用者は少ない気がする。住民にとってもっと使いやすい公園になれば良いと思う。

■委員

課題のどれを見ても必要であると記載されているが、これまでもいろいろなものが計画されてきたが、ずっと放置されている気がする。田川直方バイパス延伸や伊田駅前広場など計画されてからかなりの年数が経っている。また、下水道整備は福岡県下で最も遅れている。すべきことはたくさんあると思うが、優先順位をつけてやるべきだと思う。まず市の玄関口として駅前や中心市街地を活性化させなければならないと思う。商店街ではできないことを都市計画として計画的に優先順位をつけて行ってほしい。記載されている内容は漠然としている。

■委員

浄化槽について、田川市はどの程度の普及率があるのか、次回提示して欲しい。

■委員

合併浄化槽ができるところは良いが、まちなかはスペースがないので不可能なところもある。下水道はまちの発展には特に不可欠なものであると思う。優先順位を決めて進めてほしい。

■事務局

浄化槽の普及率については、次回提示する。今分かる数字としては、水洗化率は53%程度である。まちなかについては、合併浄化槽が設置できないので、公共下水道の整備を考えている。その他の地区については合併浄化槽を考えている。

<金川地域について>

■委員

岩屋自然公園の施設は老朽化しており、人が来ない。金川校区では金川小学校の遠足や金川中学校のウォークラリーに合わせて草刈りを行っている。ロマンスヶ丘の東屋も崩れかけている。鍾乳洞や滝ももう少し整備してほしい。ゴミが多いし、車の離合もできない。

また、直方バイパスも交通量が増えており、国道201号に抜ける車が多く、県道金田夏吉伊田線の方に流れており、通学路として通る子供たちに危険性が増している。

星美台の校区についてであるが、住所は大字糺なので、金川校区である。しかし、金川中学校と田川中学校に分かれて通っている。現在どちら付かずとなっている。なぜこうなったかと言うと、星美台は市が田川校区であるという条件付きで売り出したためと聞いている。この校区についての協議は現在も続いているが、結論は出ていないようである。

■委員

質問なのだが、住民アンケートはいつ頃実施したのか。概要はどのようなものか教えてほしい。

■事務局

都市計画マスタープランを平成21年の10月から策定し始めたが、11月に2,500人を無作為抽出し、アンケートを実施した。回答率は35.2%となっている。その内容を本日の資料の中で校区別に整理している。

■委員

金川地域であるが、資料のP.19の望まれる将来イメージの結果で「地震や洪水などの防災面に対して安心感のあるまち」の結果が全市と比較して高くなっているが、実際はどうか。

■事務局

具体的箇所は把握していないが、防災面に対する意識が高いということであると思う。

■委員

実際に土砂災害があったからだと思う。住民は肌身に感じているということだろう。

■委員

金辺川のあたりが危険箇所として認識されているのだろう。

■委員長

長時間になったが、本日はいろいろなご意見をいただいた。議事内容については、基本的には了承されたものとする。ご意見、ご指摘があった事項については、再度事務局の方で整理をしてほしい。

(3) その他

■事務局

先ほど委員の方から、伊田駅前の再開発の件でご指摘をいただいたところであるが、これも今まで、田川市が都市計画マスタープランを策定していなかったことが一つの要因ではないかと思っている。もちろん、私どもの努力も足らなかったと感じている。

事務局としては、今回策定する都市計画マスタープランの整備方針を契機として、計画的な都市計画づくりを進めていきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

次回第6回策定委員会の日程については、調整をさせていただく。今回は、地域別の現状と課題について議論していただいた。次回の策定委員会では、この現状と課題を踏まえた地域別構想における整備方針について、皆様方にお諮りしたいと考えている。

4 閉会

■委員長

(閉会あいさつ)